広報 PUBLIC RELATIONS MAGAZINE OF JOSO CITY

常総（じょうそう）

2017（平成29年）
July
No.138
7

「よさこいエイサー」
絹西小運動会

Contents 主な内容

2 3 さらなる復興へ　地域コミュニティの強化
6 市職員採用試験
14 常総市消費生活センターが石下庁舎にオープンします

いきいき茨城ゆめ国体2019
第74回国民体育大会 翔べ 羽ばたけ そして未来へ

さらなる復興へ 地域コミュニティの強化

水害に学ぶコミュニティの大切さ

～中妻町根新田地区に学ぶ～

平成27年9月関東・東北豪雨で、ある地域の取り組みが全国的に有名になりました。

そこは、市のほぼ中央に位置する中妻町の根新田地区。約100世帯の9割が床上浸水するなど、被害の大きな地域です。

そのような状況下でも、地域の皆さんにメールで鬼怒川や周辺の状況、避難を促す情報を発信し続け、住民の逃げ遅れを減らしました。

さらに、根新田地区の住民は常に送られてくるメールでのリアルタイムな情報により混乱することはなかったと言います。

大災害を経験し、防災先進都市を目指す当市にとって、市内全域において自主防災組織の結成が必要であり、根新田地区の取り組みは大いに参考になります。災害時の混乱した状況下でそういった取り組みが可能だったのは、そこに日頃から住民同士にある強い絆の存在です。

近所付き合いが希薄になっている昨今、地域コミュニティの重要性を再確認するために、根新田地区の取り組みを紹介します。

活発な地域活動

町内会を母体とした子供会、婦人会、親睦会、シルバークラブなどの団体を結成しました。それぞれの会で、定期的にグラウンドゴルフ大会や魚釣り大会、旅行を開催しているほか、季節によってはお花見や夏祭りなど、誰でも気軽に参加できるように、毎月何らかのイベントを実施しています。

参加率はいつも高く、終わった後にご飯を食べたりお酒を飲んだりすることまで含めて、みんなで楽しんでいます。

グラウンドゴルフ大会

魚釣り

夏祭り

旅行

お花見

根新田地区の紹介

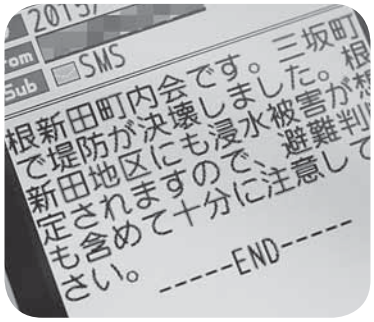
関東鉄道常総線・中妻駅の東側、国道２９４号の西側に位置しています。三妻小学校・鬼怒中学校区で、約１００世帯４００人が住む自治区です。

SMS（ショートメールシステム）一斉送信システム ねしんでん ほっとメール

根新田町内会では、ショートメールを利用した「SMS一斉送信システム」を導入し、26年10月5日から本格運用を開始しました。

町内会各世帯の携帯電話番号をあらかじめ登録しておき、雨天予想時の行事態度決定連絡や災害発生時の地域防犯情報など、緊急性の高い情報を町民に瞬時に伝達しようというシステムです。

導入するための経費も安く、高齢者でも難しくなく、誰でも簡単に利用できる優れものです。

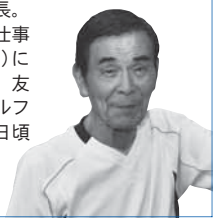


根新田地区
3人のキーマンインタビュー

根新田地区のコミュニティについて、これまでの取り組み、そしてこれからの鍵を握る3人に伺いました。

鈴木 孝八郎さん プロフィール
（74歳）〔自治区長〕

元・教師ということもあり、持ち前のリーダーシップを日頃から発揮する頼もしくも気さくな自治区長。
毎日、畑仕事（自家菜園）に精を出し、友人とのゴルフ・麻雀が日頃の息抜き。

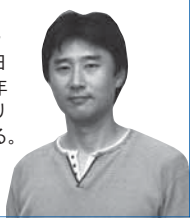


須賀 英雄さん プロフィール
（66歳）〔事務局長〕

元・自治区長。現在、宇宙関連会社勤務。娘二人は嫁に行き、妻と二人暮らし。根新田に移り住んで41年。
ほっとメールをはじめ、防災ライブカメラの設置など、数々のアイデアの持ち主。

宮川 智敬（ともひろ）さん プロフィール
（41歳）〔事務局〕

現在、大手事務機器製造メーカー勤務。大学進学を機に都内で一人暮らし。そのまま都内で就職するも、その後結婚・転職し、東日本大震災の年に約15年ぶりに実家に戻る。２児の父。



Q. 活動のきっかけは？

A. 鈴木さん

隣の砂場地区が「松の木安全会」という自警団を組織したことを広報紙で知り、自分たちも何かできることはないかと考え、防犯パトロールを始めました。防犯灯が少なく、女性や子どもたちが暗い夜道が不安でした。

同時に、住民の助け合い、近所付き合いの大切さを最大のテーマとして、幅広い地域コミュニティ活動を実施してきました。最初から参加者が多かったわけではありません。強制をしたこともありません。活動を地道に続けていくうちに、だんだんと参加者は増えていき、回数も増えていきました。

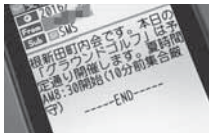
Q. 事務局長の役割は？

A. 須賀さん

自分にしかできないこと、自分が得意なことでこの地域に貢献できないかと考えました。

私は、システム開発の仕事に携わっていたこともあり、高齢者でも簡単に使える情報共有のあり方を模索していました。根新田地区も、例外なく高齢化が進み、独居老人の世帯が増えてきました。いざという時の事を考え、連絡網やどこにどんな人が住んでいるかを把握する地図を作成しました。そして、各世帯に一斉配信できる「ほっとメール」を思いつきました。

これからは、若い人を育て、引き継いでいくことが重要だと考えています。



Q. 水害時の状況は？

A. 宮川さん

自分たちのことだけで必死でした。そんな時「みんなで頑張ろう」というほっとメールが送られてきて本当に勇気づけられました。

あのような状況で本当にすごいことだと思いました。根新田災害対策本部の設置も早く、とにかく地域のまとまりが強いと感じました。また、水害を機に、さらに根新田の絆は深まりました。

ふだんから、みんなで奉仕活動をしたり遊んだりしているので、いざという時はすぐに近所同士助け合うことができるんだなと実感しました。

Q. 地域コミュニティとは？

A. 鈴木さん

近所付き合いは、やはりコミュニティ形成の基本です。家族と同じように、毎日の「おはよう」「こんにちは」「おやすみなさい」とあいさつすることから、旅行に行ったら隣近所にお土産を買っていく、嬉しいことがあったら一緒に喜び合い、悲しいことがあったら慰めの言葉をかけてあげる、そんな当たり前のことでコミュニティは自然にできていくものです。

A. 須賀さん

「市民協働」はとても大事なことですが、行政に頼るのは、自分たちでやれることをまずやってからです。足りない部分を行政の力を借りるだけです。水害の時もそうでした。自分たちで情報収集し、住民の安否確認をし、必要な物資を集めました。行政を待っているより、やってしまったほうが早いこともあります。なぜなら、自分たちの街は自分たちが一番良く知っているからです。

A. 宮川さん

情報インフラの運用を継続するために、事務局の正副体制を敷きました。地域の歴史や文化を途絶えさせることなく継続していくことが新たなコミュニティにつながります。それが、若い世代の使命だと感じています。

どの地域にも必ずコミュニティはあります。声をかけ合いましょう。助け合いましょう。

災害のときだけではなく、日頃から楽しく安心して暮らしていくために。